



Oracle® Hyperion Financial Data Quality Management

リリース 11.1.2.2.000

Readme

ORACLE
ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM

目次

目的	2
新機能	2
インストール情報	3
サポートされているプラットフォーム	3
サポートされている言語	3
サポートされているこのリリースへのパス	3
このリリースで修正された問題	4
既知の問題	5
ドキュメントの更新事項	8
アクセシビリティの考慮事項	8

目的

このドキュメントには、このリリースの Financial Data Quality Management (FDM) に関する重要な最新情報があります。Financial Data Quality Management をインストールする前に、この README をよくお読みください。

注意: メインの FDM README の他に、個別のアダプタに関する README があります。固有の構成情報についてはアダプタの README を参照してください。

新機能

FDM 11.1.2.2

ホストされているオンライン・ヘルプ - EPM System 製品のオンライン・ヘルプ・コンテンツは、Oracle の中央ダウンロードの場所から提供されます。これにより、EPM System のダウンロードとインストールにかかる時間が短縮されます。オンライン・ヘルプをインストールおよび構成して、ローカルで実行することもできます。詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照してください。

このリリースのインストール、アーキテクチャおよび配置の変更に関する新機能については、『Oracle Enterprise Performance Management System インストールおよび構成 README』の新機能に関する項を参照してください。

- ユーザーの使用可能なロケーションを追加または削除することで、管理者がユーザーのセキュリティ権限を変更するたびにそれを保存するための新たなロギング機能が追加されました。
- 新たな完全リフレッシュ実行モード・パラメータ、`executionMode` が、データをクリアして ERPI アダプタに再ロードする Web サービス・コールに追加されました。
- HFM の新たに構成可能な次元数の更新をサポートするため、Financial Management Adapter の機能が拡張されました。
- 交差検証レポートが HTML に変更されました(以前は XML ベースでした)。

FDM 11.1.2.1

FDM のアップグレード

リリース 11.1.2.2 では、以前のリリースから FDM をアップグレードできます。重要なアップグレード後の手順は、FDM 構成ガイドを参照してください。

追加のサードパーティ・サポート

FDM で、次のサードパーティ・アプリケーションがサポートされるようになりました:

. Oracle DB 11.2

MS Office 14 (Office 2010) 32 ビットおよび 64 ビット・バージョン

. OSSO

. OAM

.OID

インストール情報

Oracle Enterprise Performance Management System 製品のインストールに関する最新情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Readme を参照してください。EPM System 製品をインストールする前に、この情報をよく確認してください。

サポートされているプラットフォーム

EPM System 製品のシステム要件およびサポートされているプラットフォームに関する情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Certification Matrix でスプレッドシート形式で提供されるようになりました。このマトリックスは、Oracle Technology Network (OTN)の「Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations」ページに掲載され、Oracle Business Intelligence 製品領域にリストされています:

http://www.oracle.com/technology/software/products/ias/files/fusion_certification.html

サポートされている言語

EPM System 製品のサポートされている言語に関する情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Certification Matrix の翻訳サポートタブにスプレッドシート形式で提供されます。このマトリックスは、OTN の「Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations」ページに掲載されており、Oracle Business Intelligence 製品領域にリストされています:

http://www.oracle.com/technology/software/products/ias/files/fusion_certification.html

サポートされているこのリリースへのパス

EPM System は、次のリリースからリリース 11.1.2.2 にアップグレードできます:

注意: アップグレードの手順は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM System 製品のアップグレードに関する項を参照してください。

表 1 テーブル

アップグレード・パスのリリース: 元	先
11.1.2.x	11.1.2.2 リリース 11.1.2.0.x または 11.1.2.1.x からリリース 11.1.2.2 に移行する場合は、記載されているアップグレード手順に従うのではなく、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストーラの「メンテナンス・リリースの適用」オプションを使用してください。

アップグレード・パスのリリース: 元	先
11.1.1.3.x	11.1.2.2
11.1.1.4.x	11.1.2.2
9.3.3.x 注意: Oracle Hyperion EPM Architect リリース 9.3.1 を使用していた場合、Oracle Hyperion Shared Services リリース 9.3.3 を My Oracle Support からダウンロードできます。	11.1.2.2
リリース 9.3.3.x よりも前のリリース	リリース 9.3.3.x より前のリリースからアップグレードしている場合は、まずサポートされているリリースにアップグレードしてからリリース 11.1.2.2 にアップグレードする必要があります。前のリリースのアップグレード手順については、アップグレードする暫定リリースの製品インストール・ガイドを参照してください。
複数のリリースが含まれている環境。1 つの Shared Services のインスタンスが含まれている環境、または 2 つの Shared Services のインスタンスが含まれている環境も該当します。	Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM システム製品のアップグレードの章に記載されている、複数リリース環境からのアップグレードに関する説明を参照してください。

注意: リリース 9.2.0.3+、9.3.0.x、9.3.1.x (Oracle Essbase 9.3.1.4.1、9.3.1.5、9.3.1.6 および 9.3.1.7 を除く)、または 11.1.1.x から開始する場合、中間リリースとしてリリース 11.1.1.3 にアップグレードすることをお勧めします。前のリリースから開始する場合、開始するリリースからのアップグレードを直接サポートしている最高レベルのリリースにアップグレードすることをお勧めします。Essbase と Shared Services との間のセキュリティの同期は、リリース 9.3.1.4.1 以降の Essbase リリース 9.3 では削除されていました。ただし、Essbase および Oracle Hyperion Shared Services リリース 11.1.1.3 では、セキュリティ情報は同期されます。このため、Oracle Essbase リリース 9.3.1.4.1、9.3.1.5、9.3.1.6 または 9.3.1.7 を使用している場合、まずリリース 11.1.1.3 ではなくリリース 9.3.3 にすべての製品をアップグレードする必要があります。

このリリースで修正された問題

リリース 11.1.2.0 または 11.1.2.1 を使用していた場合、修正された不具合の検索ツールを使用して、これらのリリースとリリース 11.1.2.2 との間で修正された不具合のリストを確認してください。このツールはこちらにあります:

<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1292603.1>

- 12809927 -- ドリルバック中に複数のソース値にドリルダウンすると定数情報が返されます。
- 12936672 -- 交差検証レポート内でスクロールできません。
- 13061539 -- ERPI-Fin-C アダプタを使用して ERPI から FDM にインポートを実行する際、SQL サーバー名にダッシュが含まれているとインポート・プロセスがエラーで失敗します。

- 12883090 -- FDM からのインポートがネットワーク・エラーで失敗します (tcp_error)。
- 11733083 -- TDATESEG テーブル内のソース属性次元の長さが短すぎます。
- 9654750 -- Shared Services との FDM 統合に対するロギングが要求されます。
- 10397732 -- upcheck 検証が複数ロードでは機能しません。
- 12548925 -- 勘定科目追跡 - ワイルドカード・レポートの実行時、レポートでのアイテムのグループ化が正しくありません。
- 12683655 -- ユーザーのメンテナンスで既存ユーザーが新規ユーザーとして表示されます。
- 12825572 -- ドリルスルー・ランディング・ページでの Microsoft Excel へのエクスポートで、管理者以外のユーザーはログオフされます。
- 12582216 -- ブラウザをログオフした、または閉じたときにシャットダウン・イベントがトリガーされません。
- 11678750 -- 複雑なロジックの関数が CURVAL へ追加されません。
- 11784832 -- 基本レビュー担当者や送信者のログオン中にセッション・タイムアウト・エラーが発生します。
- 10316879 -- 単純なロジックの勘定科目が計算を正しく実行しません。
- 10352428 -- エラー・メッセージが管理者ではなくパワー・ユーザーの役割を参照します。
- 12596550 -- 管理者がプロビジョニングされていないとき、ユーザーのメンテナンスでインデックスの範囲外のエラーが発生します。
- 12644218 -- 非管理者ユーザーが、未定義のマップの Microsoft Excel へのエクスポート時にログアウトされます。
- 12540570 -- ワークベンチまたは Web からアプリケーションを作成すると、Windows イベントログにエラー・メッセージが発生し、FDM アプリケーションは作成されません。
- 7717964 -- HFM セル・テキストの保護を FDM のデータ保護機能に追加するリクエスト。
- 10378515 -- パーティションの変更ログには、場所を変更する際にユーザー名が記録されません。
- 12608362 -- チェック手順の後のワークフローに表示される「メモ帳」アイコンが、保護可能なアイテムではありません。
- 10302094 -- カスタム一般スクリプトが Windows 2008 の 64 ビット環境にありません。

既知の問題

このリリースで注意すべき既知の問題は、次のとおりです。

\Windows\SysWOW64\config\systemprofile\Desktop

Windows Server 2008 x86 を使用する場合、次のディレクトリを作成して Excel のインポートおよびエクスポートを有効にします:

\\Windows\System32\config\systemprofile\Desktop

- 13850680 -- FDM および ERPI 統合は、データベース・サーバー名にダッシュ (-)が含まれていると機能しません。
- 13096401 -- 日本語では、FDM アプリケーション名にマルチバイト文字が含まれていると Essbase からのドリル・スルーが失敗します。
- 12364736 -- 代替アダプタ列ヘッダーが「ドリル」ページに誤って表示されず。
- 13721985 -- テキストベースのマルチロード・ファイルの使用時に、データを仕訳としてロードすると失敗します。
- 12364736 -- 代替アダプタを使用する場所へのドリル時に、デフォルトのアダプタの列名が列ヘッダーに表示されます。ドリル・ページのその他の情報は正確です。
- 13096401 -- FDM アプリケーション名にマルチバイト文字が含まれていると、ターゲット・システムからのドリルが失敗します。
- 13686851 -- ワークベンチまたはスキーマ・アップデートの LoadBalance 情報を入力する際のみ、IP アドレスまたは(完全修飾名ではなく)短いサーバー名を使用します。
- 13721985 -- テキストベースのマルチロード・ファイルの使用時に、データを仕訳としてロードすると失敗します。仕訳としてロードされたマルチロード・テキスト・ファイルは機能しません。複数期間の仕訳データをターゲット・システムへロードするには、Excel ファイルを使用します。
- 13586623 -- ERPI からデータをインポートする場合の特別要件。

ERPI データベースと同じデータベース・サーバーに FDM アプリケーションを作成する場合、指定した DB サーバー名(SQL のみ)が、(JDBC 接続文字列に使用される) HIT 構成に入力された値に一致する必要があります。サーバー名を別名または IP (あるいはその両方)と混同すると、問題が発生する可能性があります。Oracle の場合、FDM アプリケーションの作成に DB サーバー名は存在しないため、HIT 構成で入力された値に一致するように TNS 名のエントリを作成する必要があります。

- 13102911 -- Pull アダプタの「検証レポートを使用可能にする」オプションの説明が、アダプタおよび Readme と異なります。

正しい説明: オン/オフ・スイッチは確認レポートを使用可能にするために使用されます。デフォルト設定は「オン」です。確認レポートを使用不可にする場合は、「オフ」に設定します。

- 13068346 -- FDM から ERPI へ統合する場合に SQL ユーザーに必要な役割。

Oracle で FDM アプリケーションを作成し、ERP Integrator とも統合する場合は、Oracle ユーザー名およびスキーマ名の指定時に大文字を使用します。アプリケーションがすでに作成済の場合は、「アプリケーションの変更」を使用して大文字と小文字を変更します。

- 13068341 -- FDM から ERPI へ統合する場合に SQL ユーザーに必要な役割。

FDM が SQL 環境で ERP Integrator と適切に統合されるようにするため、FDM アプリケーションを作成している SQL ユーザーにデータベース・サーバーへリンクする権限があるか確認します。適切な役割を付与するには、次のコマンドを使用します: Grant CONTROL SERVER to [username]。

- 12976176 -- マルチロード・ファイルをインポートしようとする、ファイルは正常にチェックインし、インポート時に「エラー:ファイルが見つかりません」と返されます。

現在、Excel ベースのマルチロード・ファイルには、ドキュメント内で指定された範囲を処理しようとする FDM では見つけれない、別のドキュメントへのリンクが含まれています。その結果、範囲を読み取ってソース・データをインポートしようとする、「ファイルが見つかりません」というエラー・メッセージが返されます。

解決策: A) Microsoft Excel ベースのテンプレートを Excel で開きます。B) 「リンクの解除」を使用してドキュメントからリンクをすべて削除し、ファイル内の #REF エントリもすべて削除します。C) 保存して FDM に再ロードします。

- Windows Server 2008 x64 を使用する場合、次のディレクトリを作成して Microsoft Excel のインポートおよびエクスポートを有効にします:
- ターゲット・アプリケーションのバージョンは FDM と同じである必要があり、同じでない場合はドリル・スルーが機能しません。
- FDM 11.1.2 は Unicode 形式で保存されたスクリプトのみを実行します。FDM アプリケーションから FDM にインポートされた(FDM ワークベンチの「ファイル」の「インポート」オプションを使用)スクリプトは、バージョンにかかわらず、エクスポートする(FDM ワークベンチの「ファイル」の「エクスポート」オプション)の前に Unicode 形式で保存する必要があります。FDM 11.1.2 はすべてのスクリプトを Unicode 形式で保存します。
- 直接入力した数字または single-width の数字のみが、シーケンス情報、日付などを含むグリッドでサポートされます。
- インポート・フォーマットでハードコードされた文字列はインポート中に大文字に変換されないため、大文字で入力する必要があります。

注意: 個別の問題については、カスタマ・サポートに問い合わせるか、Oracle Web サイトにアクセスしてください。

- FDM は 32 ビット・エミュレーション・モードで実行している 64 ビット・サーバーのみをサポートします。IIS は同じサーバー上で、同時に 32 ビットと 64 ビット・モードで実行できないため、Financial Management と FDM Web コンポーネントは同じ 64 ビット・サーバー上に配置できません。その他のすべてのコンポーネントは一緒に配置できます。

注意: これは、IIS7 および Windows 2008 を使用中の場合は該当しません。

- FDM は Citrix サーバーにインストールできません。Citrix は Citrix 以外のサーバーにホストされている FDM インストールに URL を公開できます。

ドキュメントの更新事項

EPM System 製品ドキュメントへのアクセス

各 EPM System 製品ガイドの最新バージョンは、OTN Web サイト(<http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html>)の「EPM System Documentation」エリアからダウンロードまたは表示できます。EPM Supported Platform Matrices、My Oracle Support、およびその他の情報リソースへのリンクも含まれる EPM System Documentation Portal (<http://www.oracle.com/us/solutions/ent-performance-bi/technical-information-147174.html>)も使用できます。

配置関連のドキュメントは、Oracle Software Delivery Cloud Web サイト(http://edelivery.oracle.com/EPD/WelcomePage/get_form)からも入手できます。

個別の製品ガイドは、Oracle Technology Network Web サイトからのみダウンロードできます。

管理者ガイド

次の注意事項は一時変数の格納および取得に関するトピックに必要です:

「各 POV は固有の一連の一時変数を備えています。したがって一時変数は、標準のワークフロー・プロセス(インポート、検証、エクスポート、チェック)の使用時は、異なる POV に継承されません。たとえば、期間=2003 年 11 月、カテゴリ=実績、ロケーション=テキサスに使用される一時変数は、期間=2003 年 11 月、カテゴリ=実績、ロケーション=オハイオの POV には、ロケーションが異なるため適用されません。バッチ・ワークフローは標準ワークフローと分離しているため、これはバッチ・ワークフローにも適用されます。」

次の注意事項がマッピングの制約に関するトピックに追加されました:

「ワイルドカード・マッピングを使用する場合は、ルール名が、ルールを使用してマップされる値と一致しないようにしてください。たとえば、マップ対象の値が ICP900 の場合、まったく同じ名前のマップ・ルール名は作成しないでください。ICP900x のような他の名前に変更します。」

アクセシビリティの考慮事項

オラクル社では、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントをご利用いただけることを目標としています。Oracle の<Product Name>では、<Guide Name>の付録<appendix letter>で説明されているアクセシビリティ機能をサポートしています。このガイドの最新版は、Oracle Technology Network の Oracle Enterprise Performance Management System Documentation Library(<http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html>)にあります。

また、この Readme ファイルは HTML 形式で提供され、アクセシビリティ機能がサポートされます。

著作権情報

FDM Readme, 11.1.2.2.000

Copyright © 2012, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。